

平成25年度 麻生区地域課題対応事業評価一覧表

| No. | 新規・継続 | 事業名 | 予算額(円) | 決算額(円) | 所管課 | 事業概要 | 実績 | 取組の成果 | 今後の方向性 |
|---------------------|-------|----------------------|-----------|-----------|---------|--|--|--|--|
| 1 安全・安心まちづくり | | | | | | | | | |
| 1 | 継続 | 麻生区安全・安心まちづくり事業 | 1,627,000 | 1,584,480 | 危機管理担当 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会情勢に即応した課題を共通認識し、住民、地域団体、事業者、行政機関等の連携及び協働により、区民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進める。 ●死亡事故に直結することの多い自転車事故を回避するための判断力向上に向け、事故の瞬間、現場を目で見て学ぶことを目的に「スケアードストレート交通安全教室（スタントマンによる自転車事故の再現）」を実施する。 ●増加傾向にある高齢者の事故防止のため、民間自動車教習所で高齢者が安全な交通運転技術を習得する「シルバー・ドライビングスクール」を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●社会情勢に即応した課題を共通認識し、住民、地域団体、事業者、行政機関等の連携及び協働により、区民が安全で安心して暮らせるまちづくりを進める。 ●死亡事故に直結することの多い自転車事故を回避するための判断力向上に向け、事故の瞬間、現場を目で見て学ぶことを目的に「スケアードストレート交通安全教室（スタントマンによる自転車事故の再現）」を実施する。 ●増加傾向にある高齢者の事故防止のため、民間自動車教習所で高齢者が安全な交通運転技術を習得する「シルバー・ドライビングスクール」を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●住民の犯罪のない安全・安心できるまちづくりに対する関心が高まるなか、パトロール団体のパトロール実施とさらなる推進のため、安全・安心まちづくり協議会主催によるパトロール手法研修会の開催や物品の貸与等を行うことにより、安全で安心なまちづくりに貢献した。また、セーフティメールの加入促進を町内会、小学校等へ広報し、新規登録者募るとともに、当該メールの情報配信により区内の犯罪発生状況等がすばやく確認でき、防犯意識の向上を図ることができた。 ●スケアードストレート教室は、市立長沢中学校の生徒を中心に他の機関・団体も参加して実施した。実際の自転車事故の現実感のある恐怖体験をしてもらうことにより、生徒の事故防止の意識向上に役立った。 ●シルバー・ドライビングスクールは昨年より1人多い12名の参加者により実施し、参加者から大変有意義であったとの評価をいただいた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●住民の防犯への意識・関心は高く、一層の関係機関の連携が求められている。事業別、年代別の犯罪等に対する研修会・講習会の継続開催や、地域間、パトロール組織間の意見交換会を継続して実施し、安全で安心なまちづくりを推進していく。 ●スケアードストレート教育についても継続して実施し、少年の自転車事故防止に繋げていく。高齢者の事故防止のため、高齢者を対象としたシルバー・ドライビングスクールも継続して実施していく。 |
| 2 | 継続 | 麻生区ガイドマップ増刷改訂事業 | 929,000 | 706,650 | 地域振興課 | <ul style="list-style-type: none"> ●区民から好評を得ている麻生区ガイドマップを、最新の情報に更新し、改訂版を発行する。配布方法は、転入者に転入時に配布することを中心に、区役所窓口にて必要な方に配布する。転入者に知ってもらいたい、放置自転車等放置禁止区域、路上喫煙防止重点区域の掲載や、転入者が転入して不安のないよう、災害緊急時の井戸の所在地や避難所一覧など防災情報も盛り込むなど、地図情報だけでなく、麻生の各種情報を盛り込んだものとする。 | <ul style="list-style-type: none"> ●麻生区ガイドマップの改訂・発行 ●区ホームページの地図データの更新 | <ul style="list-style-type: none"> ●麻生区ガイドマップを改訂・発行することによって、転入者及び市民に対して最新の情報を提供することができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●他区の状況を考慮しながら、現在掲載している項目を基に利用者の意見及び関係機関の意見を参考に掲載内容を検討する。 |
| 3 | 継続 | 麻生落書き消し事業 | 149,000 | 128,690 | 地域振興課 | <ul style="list-style-type: none"> ●新百合ヶ丘駅周辺並びに百合ヶ丘駅及び柿生駅周辺等を中心とした落書き消しを実施し、駅周辺の美化と犯罪防止を目指す。また、町会・地区の要請による「出前落書き消し」を実施し、落書き消しのノウハウを伝え、区内の美化と安全で安心なまちづくりを推進していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ●区内駅周辺等の一斉落書き消しの実施 ●地域の要請に応じた「出前落書き消し」の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ●落書き消しを行うことで、まちの美観を保持するとともに、防犯効果をもたらした。 | <ul style="list-style-type: none"> ●市民活動団体の主体的な取組に留意しながら、本事業を通じて住民間の交流が発展するよう支援する。 |
| 4 | 継続 | 小学校区危険箇所案内マップ作製事業 | 280,000 | 279,006 | 危機管理担当 | <ul style="list-style-type: none"> ●交通災害、犯罪に巻き込まれないことを目的に、平成23年度から、小学校区ごとに交通・防犯上の危険箇所を把握し、マップを作成している。事業を開始した平成23年度は、1年生から3年生までに配付しているが、平成24年度以降は4月に入学する新1年生用に必要部数を増刷して、小学校を通じて配布する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●小学校区危険箇所案内マップの増刷と配布を完了させた。（平成26年度新入学1年生用） | <ul style="list-style-type: none"> ●新入学児童の家庭に交通・防犯上の危険箇所の周知ができ、交通事故の防止と防犯意識の向上に繋がった。 | <ul style="list-style-type: none"> ●現行のマップを全面改訂するため、版の改定との予算を確保し、平成27年度の新入学1年生に加え新2年生及び新3年生までを対象とし、円滑に3月中に各小学校に配布する。 |
| 5 | 新規 | 地域防災力の向上事業(局区連携) | 1,530,000 | 1,070,153 | 危機管理担当 | <ul style="list-style-type: none"> ●公助の速やかな活動を行なうためには災害対策本部の早期設置が重要であるため、ライフライン断絶を考慮した際に必要な区本部用物品の備蓄を進める。また、東日本大震災をはじめとする過去の災害の経験や教訓を生かすことが今後の防災対策の推進に繋がることから、特に帰宅困難者対策と避難所対策の充実を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ●区本部体制の整備に伴う必要物品の検討・購入 ●帰宅困難者対策として、新百合ヶ丘駅周辺の大型民間施設への一時滞り者の受入れ打診及び協定の締結 ●次年度以降に向けた区独自の避難所用備蓄物品の具体的な検討 | <ul style="list-style-type: none"> ●発災時に想定されるライフライン断絶、特に電話の使用不可に対応するため、近距離用簡易無線機を麻生区初動対応職員用として整備し、情報収集・伝達体制の構築を図るとともに、防災対策図を作成し、災害情報の把握・共有化を図った。 ●帰宅困難者の一時受入施設として川崎市アートセンターを指定し、帰宅困難者対策を推進した。 ●区独自の避難所用備蓄物品の導入に向け、自主防災組織連絡協議会や各避難所運営会議、災害対策連絡協議会等の地域防災組織から意見を徴集し、検討を開始した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●区本部体制の充実、発災初動時における公助体制の強化に直結するものである。特にライフライン断絶に備えた物品の整備は、初動対応に大きく関わる問題であるため、今後も市と連携して検討の必要がある。 ●帰宅困難者対策は、市や災害対策連絡協議会「帰宅困難者等支援部会」等と連携し、新たな一時滞り施設との協定締結や訓練の実施等により強化していく。 ●区独自の避難所用備蓄物品は、避難所生活の長期化・快適性を視野に入れ、市導入の物品との整合性を図りながら導入を推進していく。 |
| 6 | 新規 | 地域防災力の向上事業(区独自) | 441,000 | 1,060,257 | 危機管理担当 | <ul style="list-style-type: none"> ●自助・共助・公助それぞれの指針となる地域防災計画の修正をはじめ、各種災害対策マニュアルの修正を行うとともに、職員防災プロジェクトチームの発足等により、職員の防災意識の向上と緊急時における行動の習得によって、災害対応の充実を図る。また、事務局を担う自主防災組織及び災害対策連絡協議会への支援・連携により、共助体制の強化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ●区地域防災計画の修正及び周知 ●各種災害対策マニュアルの時点修正 ●職員防災プロジェクトチームの発足、会議開催及び研修の実施 ●麻生区災害対策連絡協議会の開催（全体会議・各部会） ●麻生セーフティメールによる災害情報の発信 ●自主防災未結成組織への結成促進 ●避難所単位での合同防災訓練の推進 ●麻生区区民会議家具転倒防止等モデル事業の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ●市地域防災計画の修正に合わせ、東日本大震災の教訓や経験を生かし、また麻生区独自課題の項目を加え、区地域防災計画の修正を行った。麻生区内の職員（公助）、区民や事業所（自助）及び地域組織（共助）の防災指針として、防災意識の向上に役立っている。 ●「職員防災プロジェクトチーム」を結成し、災害発生時の行動検証や外部施設見学による研修会を実施し、職員の防災意識向上や連絡体制の充実を図ることができた。 ●共助体制の一番の担い手である自主防災組織の結成について働きかけた結果、今年度は新たに3組織が結成され、地域防災力の強化を推進している。 ●麻生区区民会議で審議された家具転倒防止等モデル事業を区内19世帯で実施し、区民の主体的取り組みを推進する成果を得ることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●特に東日本大震災以降、住民の防災に対する意識は向上しており、自助・共助の取組みも強化されている。しかしながら、防災対策に到着点はないことや個人の温度差があることなどから、今後も啓発活動や訓練を継続し、災害に強いまちづくりを推進していく。 ●また、職員に対しては、各種計画やマニュアル類の整備・習熟や、職員防災プロジェクトチームでの各種研修等を通じて、一人ひとりが防災意識を高く持つとともに、発災時の行動パターンを習得することにより、公助体制の強化を図る。 |
| 2 地域福祉・健康づくり | | | | | | | | | |
| 7 | 継続 | あさお福祉まつり | 2,660,000 | 2,077,690 | 地域保健福祉課 | <ul style="list-style-type: none"> ●区内で地域福祉活動に携わる当事者・ボランティア・施設などの活動を広く区民に知らせると共に、福祉について理解を深める「あさお福祉まつり」を開催する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●11月17日(日)開催。77の福祉関係団体が参加。事業実施に当たって、運営体制と必要経費の見直しを図った。 | <ul style="list-style-type: none"> ●麻生区では、福祉分野の恒例行事として定着しており、今回も区内福祉団体・ボランティアの活動紹介やパネル展示、高齢者疑似体験や車椅子体験等の各種体験コーナー、福祉施設等の自主製品の販売などを行った。当日来場者は6,000人超で、多くの区民に地域福祉活動を啓発するとともに、地域での支え合い・助け合いの重要性を訴えることができた。また、事業実施に先立ち、運営体制の見直しと必要経費の精査を行い、まつりへの参加団体がより積極的に作業に関わる体制と経費削減を進めることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●当事業は今年で24回目を迎え、来場者6,000人規模の実績を誇る。麻生区でも定着したまつりである。また、区民発意のより自主的な運営を継続しており、今後も引き続き事業運営体制や必要経費の精査を行うしつつ、区民自らで作り上げる福祉事業として継続していく予定である。 |
| 8 | 継続 | ウォーキングマップ活用健康づくり推進事業 | 967,000 | 885,952 | 地域保健福祉課 | <ul style="list-style-type: none"> ●歩行習慣のない区民を対象に、より身近な地域でウォーキングが開始できるよう支援し、広くウォーキングの普及を図ることによって、生活習慣病の予防及び介護予防を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ●体験ウォーク年8回実施 ●公園de健康ウォークを麻生区内6か所の公園で実施（各公園週1回ずつ） ●改訂あさおウォーキングマップの増刷 ●区民向けのウォーキング講習会2回、ボランティア向けの講習会2回開催 | <ul style="list-style-type: none"> ●体験ウォークはほぼ毎回募集定員を超えた参加率で、初参加も2割程度あり、ウォーキングを始めるきっかけづくりができた。また、現在ボランティアが中心に実施している6ヶ所の公園ウォークを継続的に実施していくために、ボランティア養成教室を開催し、新たなボランティアが活動につながった。さらに、今年度も区民向けのウォーキングの講習会を2回、ボランティア向けを2回開催し、ウォーキングの知識や技術を学ぶ機会を設け、区民がウォーキングに親しんでもらう機会を設けた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●当該事業は、事業開始から来年度で10年の節目となり、体験ウォークや公園ウォークなど区民のウォーキングの普及のための事業が充実してきている。今後も継続できる体制づくりを進めるために、これまでの活動を検証した上で、ボランティアの育成や研修、講習会の開催など、引き続き区民と協働して、より効果的な事業執行を目指していく。 |
| 9 | 継続 | 高齢者見守りネットワーク事業 | 500,000 | 389,577 | 高齢・障害課 | <ul style="list-style-type: none"> ●事業活動を通じて高齢者と接することの多い民間事業者等と連携することなどにより、異変のある高齢者や何らかの支援を必要としている高齢者を早期に発見し、必要な支援を行うなど、地域社会全体で高齢者を見守る体制を確保し、高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりを目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ●情報交換会を開催し、協力事業者との連携を強化 ●パンフレット・ガイドブック・ステッカーを増版 | <ul style="list-style-type: none"> ●情報交換会の開催方法を見直し、新たに各地区民生委員児童協議会会長を参加者に迎えるとともに、地域包括支援センターを中心としたグループ別の意見交換を行うことにより、協力事業者や関係機関との連携体制の強化及び高齢者見守りネットワークの充実を図ることができた。また、パンフレットを市民向け認知症講座等で配布し取組の紹介をすることで、事業の周知及び理解の促進を図ることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●現協力事業者や関係機関との連携体制の強化や理解の促進など、事業内容の充実に向けた取組を強化していく。 |
| 10 | 新規 | 健康づくり普及啓発事業 | 471,000 | 389,625 | 地域保健福祉課 | <ul style="list-style-type: none"> ●麻生区においては、健康づくりの取り組みがさまざまなところで実施されているが、それぞれのグループや団体がどのような活動をしているのか等情報を共有し、健康づくり活動の場を広げられるようにネットワークづくりに取り組む。また、健康づくりに関する情報を発信する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●麻生区健康づくり推進会議を年4回開催し、それぞれの団体の活動情報を共有した。 ●健康づくり情報冊子を15,000部作成し、3月から配布を開始した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●「あさお いきいき健康づくりガイド」を作成した。 ●区内医療機関、関係団体、関係機関窓口配布し、周知を図ることができた。 | <ul style="list-style-type: none"> ●川崎市健康増進計画「第2期健康づくり21」推進のための一つの施策として、情報発信の充実が求められている。健康づくり推進会議委員とともに、情報内容の検討を行い健康づくりの普及・啓発を継続する。 |

| No. | 新規・継続 | 事業名 | 予算額(円) | 決算額(円) | 所管課 | 事業概要 | 実績 | 取組の成果 | 今後の方向性 |
|-------------------|-------|---------------|-----------|-----------|--------|--|--|---|---|
| 3 総合的こども支援 | | | | | | | | | |
| 11 | 継続 | 子育て支援・企画事業 | 5,071,000 | 4,308,228 | こども支援室 | 地域の子ども関連機関や団体と連携し、情報交換、研修、相互協力を行うことにより、地域の実情に合った総合的なこども・子育て支援事業を実施する。 | 1事例検討会(11回)や必要時に関係機関とのカンファレンス(30回)を開催。要保護児童対策協議会として実務者会議(2回)、連携調整部会(18回)、個別支援会議(30回)、研修会(1回)を開催。 2全体会議(2回)部会(各部会2回~4回、研修会など3回) 3きゅっとハグあさお、ちびっこおでかけMAP、子育てポケット、麻生区の魅力発見すろく等増刷・発行 4子育てグループへの子育てボランティアの派遣50件76名 5公立保育園での地域支援事業「貸し出し絵本」「保育園体験」「お誕生日会」を定期的実施。未就学児親子向け講演会「ハッピーメロディ」(7/30、7/31)149名「ふわふわ山の音楽会」(12/9、12/19)124名 6発達支援子育て講座(2/14)15名(雪のため82名参加のところ15名参加) 7関係会議5回開催。幼稚園・保育園訪問、小学校訪問を実施 | 具体的な取組を実施する中で、関係機関、団体との相互協力により情報交換や事例検討等を行うことにより総合的な子育て支援に繋げることができた。また地域に向けて様々な事業を展開し、子育て世帯への孤立化による不安感や負担感の軽減等の支援に繋げることができた。 | 今年度の実施結果を踏まえ、事業の構成、対象、内容等を検討して来年度に繋げる |
| 12 | 継続 | こども関連大学連携事業 | 2,641,000 | 2,352,313 | こども支援室 | 「麻生区・6大学公学協働ネットワーク」を活かし各大学の特色や資源などを活用した、総合的な子育て支援事業を推進する。 | ●昭和音楽大学と連携した事業 ・マタニティコンサート(7/11)36名(12/12)58名 ・子どもと一緒にコンサート(2/8)125名 ・交流コンサート(6/30)40名 ●和光大学と連携した事業 ・夏休みファミリー体験学習in鶴見川(8/3)63名 ・大きなあれ あさおっこ(11/16)86名 ●田園調布学園大学と連携した事業 ・あそぼうけろけろ田園チャイルド(9/3)62名(2/26)46名 ●日本映画大学と連携した事業 ・わくわく映画づくり!(8/15~8/17)26名 ●明治大学黒川農場と連携した事業 ・アグリ・エコファーム体験in明大黒川農場(10/5)61名 | ●各大学の特色を活かした連携事業において、体験学習等を通じて親子、各大学の教員や学生との交流が深められ、次世代交流が図れた。また相互協力により事業の運営が計画通りに適正に実施できた。さらにアンケート結果からも評価が高く、総合的な子ども・子育て支援に繋げることができた。 | 今年度の実施結果を見直し、開催日時や事業の構成、対象、内容等を検討し、来年度に繋げる。 |
| 13 | 継続 | 外国籍等こども学習支援事業 | 634,000 | 316,872 | こども支援室 | 外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援するため、学校での個別指導や地域拠点(市民館・こども文化センターなど)での集団学習支援を行う。 | ●学校の授業中や放課後の個別指導 ●区内の公共施設における自由参加による集団支援 ●学校での支援における学校支援センターとの連携 | ●個々のレベルや実情に配慮した個別の支援により、学習言語の理解をたすけ、学習力の向上を図っている。 ●集団支援には家族や友人も参加しており、地域の中での交流を深めることにつながっている。 ●学校支援センターと連携することで、学校との調整等がより円滑になり、学習支援活動が効率的に行えた。 ●定例会における情報交換、ボランティア研修などにより、スタッフの対応力の向上が図られた。 | 事業内容について、より一層の充実を図り、外国につながる児童・生徒たちの学習を地域で支援する活動を継続していく。 |

| | | | | | | | | | |
|------------------|----|---------------|-----------|-----------|---------|--|--|---|---|
| 4 環境まちづくり | | | | | | | | | |
| 14 | 継続 | あさお花いっぱい推進事業 | 900,000 | 894,800 | 地域振興課 | 区民との協働による地域の環境美化及び地域コミュニティの推進を目的に、川崎市美化運動実施麻生支部と協働し、公共的空間にある花壇を自主的かつ継続的に管理している団体を支援していく。 | 自主的かつ継続的に花壇を管理している団体へ花苗等を提供することにより、団体の活動の活性化に、寄与することができた。 | 今年度は昨年度(16団体)の1.5倍にあたる24団体に花苗・プランターなどを提供し、団体の活動の活性化及び地域の環境美化活動の一端を担うことができた。 | 自主的かつ継続的に花壇を管理している団体の活動の助成、地域に根ざした活動の発展、地域の環境美化に対する意識向上を達成するため、当事業による支援は重要であり、地域の環境美化活動に対する更なる区民の意識の向上、自然の保護や育成に今後も継続的に取り組んでいく必要がある。花苗等の提供方法については、効果的な方法を支援団体からの要望等を踏まえ、検証して実施していく。 |
| 15 | 継続 | 麻生里地・里山保全推進事業 | 1,180,000 | 1,180,000 | 生涯学習支援課 | 麻生区は、多摩丘陵の豊かな自然を残しながら、「しんゆり・芸術のまちづくり」などを中心にまちづくりが進められている。しかし、その一方で、心を和ませてくれる里山やのどかな田園風景が、年々失われつつある。このまちの先人達が築いてくれた里山の自然や、その自然とともにある貴重な文化や歴史を継承し、様々な団体や個人との協働や連携を図り、まちづくりに根ざした新しい里地・里山の魅力を引き出し、次世代へつなぐための事業を展開する。 | 麻生区の小学生や親子を対象にしたあさお里山こどもクラブを実施した。麻生区の自然や文化、伝統等に触れることで、次世代を担う子ども達に地域の里地・里山活動への関心を高められた。 | ●7月~12月 里地・里山カフェ塾の一環として、小学生・中学生を対象にした「あさお里山こどもクラブ」(全5回)を新たに実施した。多くのこどもが麻生区内を中心とした身近な自然や文化に親しみ、それらの大切さを感じてもらうことができた。 ●9月~3月 ナチュラリスト入門講座Ⅳを実施し、麻生区の田んぼに触れあったり、多摩美地区の植物観察等を行った。また、12月にはあさお里山こどもクラブと合同で活動し、各世代が交流しあいながら、様々な体験活動を行った。 ●12月 万福寺人参品評会&試食会を開催し、「万福寺人参」の普及啓蒙活動に取り組んだ。 ●3月 里山フォーラムを開催し、麻生区中心に活動されている里地里山保全推進団体やグループが一堂に会して、発表等を行い各団体の活動状況を共有したり、団体同士の交流を積極的に行うことができた。 | 今年度、新たに取組んだ「あさお里山こどもクラブ」を、次年度以降もより一層充実した講座になるよう検討を加える。また、その他の講座等についても新たな事業の可能性を模索しながら、この事業全体の更なる発展を目指す。 |
| 16 | 継続 | ヤマユリ植栽普及促進事業 | 363,000 | 362,619 | 地域振興課 | 区内で自然環境再生への問題意識が高まっている中、地域の環境美化及び地域コミュニティを推進するために、地域の公園緑地管理運営協議会等と連携し、消えつつあるヤマユリの植栽活動を促進、支援し、植栽のノウハウの蓄積、普及を推進する。 | ●ヤマユリ植栽地の観察・管理活動 ●開花展示会を1回開催 ●ヤマユリ鉢植え講習会を1回開催(球根編) | ●地域団体との連携を図りながら植栽地の管理活動を進めることができた。 ●開花展示会での鉢植えヤマユリとパネル展示によりヤマユリに関する普及促進を行うことができた。 ●講習会を通じて参加者のヤマユリへの関心を深めることができた。 | 貴重となったヤマユリの再生を通じて、地域のコミュニティづくりの支援を行うとともに、講習会や広報を通じて関心を喚起し参加者の拡大を図る。また、そのノウハウの蓄積、普及を推進することにより、地域の環境美化及び地域コミュニティの強化を促進していく。 |
| 17 | 継続 | エコのまち麻生推進事業 | 1,550,000 | 1,240,410 | 企画課 | 区民一人一人が取り組める身近なエコ活動を啓発し、区民や市民活動団体等との協働による「エコのまち麻生」を推進する。 | ●緑のカーテンを区内展開 ●あさおエコクイズラリー(環境イベント)の実施 ●親子で生ごみリサイクル講習会開催 ●小学校への出前授業など自然エネルギーの啓発活動実施 | 緑のカーテンは、区内各施設(区役所、道路公園センター、保育園、岡上分館、大学など)で昨年度より拡大実施し、実施状況をホームページに公開するなど区民に視覚的にエコ意識を啓発した。環境イベントについては、7~9月に「あさおエコクイズラリー」を実施し環境団体の活動イベントを広報し、関連団体と連携した広報の充実を達成した。その他自然エネルギー学校、出前授業、お日さまコンサート、太陽光パネル設置相談窓口設置など、多種多様な視点で区民と協働による自然エネルギー活用啓発普及に寄与した。 | 区内の豊かな緑・環境資源を活かすため、引き続き環境活動を啓発するターゲットを明確にし、あまり意識の高くない区民の掘り起し等、普及啓発活動を継続的かつ多角的な視点で、区民との協働により検討・実施していく。 |

| No. | 新規・継続 | 事業名 | 予算額(円) | 決算額(円) | 所管課 | 事業概要 | 実績 | 取組の成果 | 今後の方向性 |
|-----|-------|-----|--------|--------|-----|------|----|-------|--------|
|-----|-------|-----|--------|--------|-----|------|----|-------|--------|

5 地域資源活用(芸術・歴史・文化)

| | | | | | | | | | |
|----|----|----------------------|-----------|-----------|-----------------|---|---|---|---|
| 18 | 継続 | 麻生音楽祭開催事業 | 4,000,000 | 3,971,323 | 地域振興課 | 「しんゆり・芸術のまち」の推進と連携し、麻生区を中心に音楽活動をしている音楽団体、小学校・中学校・高等学校などの音楽グループが、それぞれの自主性を尊重しつつ、日ごろの活動の成果を披露し、相互の交流を図りながら、互いに学び合うという精神を生かすとともに、広く区民のきずなを深め、区政の推進と芸術文化の向上を図る場として実施する。 | ●区民主体の音楽祭の開催 ●舞台運営の講習会の開催 | 音楽祭を開催し、新百合ヶ丘駅周辺にバナーフラッグを掲げることで、「音楽の街あさお」を多くの市民に感じてもらうことができた。また、バックステージ講習会により、舞台の裏方の人材育成を行うこともできた。 | 区民主体の運営体制が軌道に乗り、滞りなく事業を遂行できた。次年度以降は事業を実施しながら課題を検討し、改善につなげていく。 |
| 19 | 継続 | あさお観光資源の魅力紹介事業 | 1,283,000 | 1,174,235 | 地域振興課 | 麻生区の魅力を区内外に向けて広く発信するための事業を実施する。 ・観光写真コンクールの開催 ・観光写真コンクール入賞作品を題材にした記念品の制作 | ・観光写真コンクールの企画・実施 ・観光写真コンクール入賞作品を題材とした記念品の制作 | 観光写真コンクールの開催については、11月から作品を募集、3月に表彰式を開催し、区役所等において展示会を開催した。また、観光写真コンクールの入賞作品を題材とした記念品を制作し、区民へ配布した。作品募集、展示会の開催、記念品の配布を通じて、麻生区の魅力を多くの方々に発信していただくとともに、区の魅力をもPRすることができた。 | 過去の実施内容を踏まえ、より効果的に事業目的を達成できるよう、実施方法等について改善していく。 |
| 20 | 継続 | KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会 | 900,000 | 899,328 | 地域振興課 | 自然豊かで芸術文化の香り漂い、新たな故郷が感じられるまちづくりが望まれているなか、麻生区に定着している芸術文化資源「KAWASAKIしんゆり映画祭野外上映会」を有効に活用して、「ふるさとあさお」「芸術文化のまち麻生」を提供する。さらには、家族での夏休み最後の思い出作りの場として提供する。 | 日時：平成25年8月24日(土) 会場：麻生小学校校庭 来場者数：861人 | ●多くの区民が参加し、夏の終わりの思い出作りの場を提供することができた。 ●上映映画に関連したイベントや、子どもが参加できるアトラクションを実施することで、親子や地域住民の交流の場を提供することができた。 | 地域の夏のイベントとして定着し、多くの区民が参加して親子のふれあいの場にもなっている。親子が楽しめる作品の上映と集客の向上を目指すとともに、区の魅力を外に発信していく。 |
| 21 | 継続 | ふるさとあさお再発見事業 | 310,000 | 310,000 | 地域振興課 | 【あさお古風七草粥の会】麻生区の豊かな自然の中で育まれた米・野菜・七草を用いて、「古風」の所以である焼いたお餅を加えたお粥を振る舞う。 | 【あさお古風七草粥の会】1月7日開催 | 【あさお古風七草粥の会】七草粥を振る舞うことで、多くの市民に伝統文化を再確認してもらうことができた。 | 地域に伝わる伝統伝承文化を風化させず、後世に継承していくという観点から継続的な事業展開が必要であり、また広報等について効果的に行っていく必要がある。 |
| 22 | 継続 | あさお芸術のまちコンサート事業 | 2,270,000 | 1,985,989 | 地域振興課 | 平成12年度より始まった「あさおランチタイムコンサート」が会場を区役所ロビーから区内ホールへ移し名称を改め実施している。区民が気軽に音楽を楽しむことができる機会を設けることで、区のイメージアップを図るとともに、音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりを促進する。 | ●コンサートの企画・運営 ●音楽家の発掘・人材育成 ●音楽家ネットワークの促進 | ●地域に根ざした活動として定着し、区民に大変親しまれている。 ●1回のコンサートにつき平均して200～300人の来場者があるとともに、毎回来場する根強いファンもあり、区民に期待されるコンサートとなっている。 ●新春コンサートではあさお古風七草粥の会との、シネマサロンコンサートでは川崎市アートセンターとの協力で実施するなど、他団体との連携を図りながら実施できた。 ●開催回数を100回以上重ねてきたことにより、応募・出演したことのある音楽家・音楽愛好家のネットワークづくりにも取り組み、自主的な拡充を図っており、新たなネットワーク登録者を10組追加できた。 | より市民主体の運営を目指していく。開催場所等を見直し、効果的な事業展開を行う。また、今後も他事業との協力・連携を一層図り、効率的で効果的な情報発信をしていく。地域の音楽家・音楽愛好家とともにより良いコンサートづくりに努める。 |
| 23 | 継続 | しんゆり・芸術のまち推進事業(局区連携) | 7,209,000 | 7,140,474 | 地域振興課 | 新百合ヶ丘駅周辺に集積する芸術関係のさまざまな施設や人材などの地域資源を活かし、事業者、教育機関、市民、行政等の連携により、「しんゆり」を中心とした活力ある地域経済の創造、豊かな地域社会の実現と芸術を通じた幅広い効果を追求する「しんゆり・芸術のまちづくり」の確立を目指す。 | ●「芸術のまちづくり」民間推進組織及び芸術関連イベントの支援、民間推進組織による地域情報の収集・発信により、芸術のまちづくりの推進体制が確立された。 | 「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」と協働し、しんゆりオーリーブまつり、kirara@アートしんゆり等のイベントを実施。そこでインターシップの学生による企画を行い、学生が持つ柔軟な発想と情報発信スキルを生かしながら新百合ヶ丘の芸術のまちづくりを広くアピールした。また、CM放映等の広報により麻生区民、企業及び商業施設等に芸術のまちづくりを周知することが出来た。 | 引き続き、「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」などと協働した取り組みを進め、芸術関連組織の行う活動を支援して芸術のまちづくりを推進するとともに、芸術・文化を中心とした地域情報の収集・発信を行う |
| 24 | 新規 | 郷土岡上の歴史・文化継承事業 | 200,000 | 200,000 | 生涯学習支援課(岡上地区担当) | ●岡上に関わる古くからの歴史資料を収集・整理し、資料集としてまとめ、将来に伝えていく。 ●地域に残る古文書や石造物などから岡上の歴史を学びあい、共に考えることにより、区民相互の交流を深め、地域の特性を活かしたまちづくりを推進する。 ●資料集の制作及び情報紙の発行により、岡上の魅力を広く発信する。 | ●岡上地区の歴史資料を収集整理し、一般に公開。 ●岡上地区の歴史・文化継承事業の実施 ●古文書講座の開催 9月～2月全5回 ・公開講演会の開催11月 ・情報の収集と発信3月 | ●古文書講座及び公開講座を広く麻生区全体に広報し、多くの区民に参加してもらうことが出来た。岡上が飛び地になった経緯や地域色が色濃く残っている理由などを知る内容となっており、区民のふるさと意識を高めていく一助になっていたと考える。企画委員を広く公募し、岡上在住以外の区民の参画があり、事業実施において、幅広い視点を取り入れることができた。 | 次年度は、再度企画委員を公募し、事業に参画する区民を増やし、事業の幅を広げていく。公開講座・古文書講座を継続し、温故知新の学びから、地域を見直し、これからのまちづくりを考えていく方向につなげていく。まちづくりを考えていく資料として、絵地図の作成にも着手する。 |

6 地域資源活用(スポーツ)

| | | | | | | | | | |
|----|----|----------------------|-----------|-----------|-------|--|--|--|---|
| 25 | 継続 | スポーツのまち麻生推進事業 | 2,735,000 | 3,025,392 | 地域振興課 | 川崎フロンターレ麻生グラウンドを始めとした、区内のさまざまなスポーツ資源を活用した事業を実施するとともに、麻生スポーツセンターを核として、地域のスポーツ関係団体の活動の支援や情報交換を通して、魅力あるスポーツのまちづくりを推進する。 | ●区内スポーツ資源(川崎フロンターレ)を活用した事業の実施 ●スポーツのまち麻生推進会議の運営 ●各種スポーツ大会の支援 ●スポーツ関連情報の発信 上記について計画通りに実施した他、年度当初予定になかったが、総合型スポーツクラブ立上げに向けた調査研究事業を追加で実施した。 | ●取組みにより、区内のスポーツ活動が活性化し区民の健康増進に寄与することができた。 ●川崎フロンターレを地域住民が一体となって応援することで地域の活性化や絆づくりに寄与した。 ●総合型スポーツクラブ立上げに向けて調査を行い現状やニーズが把握できた。 | 来年度も引き続きスポーツのまち麻生の推進に向けて、より効果的・効率的な進め方を検証しながら取り組んでいく。 |
| 26 | 継続 | スポーツ・健康ロード整備事業(局区連携) | 2,921,000 | 2,916,500 | 地域振興課 | スポーツゾーンの玄関口である柿生駅から川崎フロンターレ麻生グラウンドを経由して栗平駅までの行程を「スポーツ・健康ロード」として、ジョギングやウォーキングに適した環境の整備工事を行う。工事完了後、活用促進を目的としてスタンプラリーの実施及び案内マップの作成と配布を行う。 | ●仕様確定 ●整備工事の実施 ●活用促進のためのスタンプラリーの実施 ●活用促進のための案内マップの作成・配布 | スポーツ・健康ロードの整備により、地域住民へ日常的な運動の機会の提供が可能となり、区民の健康増進に寄与することができた。花壇の維持管理を地域が連携して行うことにより、地域の団体間の連携が進んだほか、麻生区のイメージアップを図ることができた。 | 次年度は健康ロードを活用したイベント等の実施を通じて、健康ロードのPRや普及に取り組む。 |

7 地域資源活用(その他)

| | | | | | | | | | |
|------|----|--------------------|-----------|-----------|-------|--|--|---|---|
| 27 | 継続 | イメージアップ推進事業 | 1,332,000 | 1,542,010 | 企画課 | 以下のとおり | 以下のとおり | 以下のとおり | 以下のとおり |
| 27-1 | 継続 | 懸垂幕作成業務 | | | 地域振興課 | 麻生区のイメージアップを図るため、「アルテリッカ・しんゆり」の開催やスポーツ・文化活動などの全国大会出場等に応援する懸垂幕を区役所壁面に掲出し、広く地域住民にPRする。 | ●ミラクルダッチ世界大会優勝と麻生高校チアリーディング部全国大会出場懸垂幕を掲出 ●アルテリッカしんゆり開催PR懸垂幕の掲出 ●麻生川桜まつりで、桜並木ライトアップ、クイズラリーの開催 | ●ミラクルダッチ世界大会優勝と麻生高校チアリーディング部全国大会出場懸垂幕を掲出したことで麻生区内のスポーツ活動の区民へのPRができた。 ●「アルテリッカ・しんゆり」の開催を地域住民にPRできた。 ●麻生川桜まつりで、桜並木ライトアップ、クイズラリーを開催し、麻生川の魅力と市制90周年を来場者にPRできた。 | 今後も、区のスポーツ・文化活動において、懸垂幕の掲出を行い、広く地域住民に広報していく。 |
| 27-2 | 継続 | 新百合ヶ丘駅周辺のイベント支援事業 | | | 企画課 | 公民協働による取り組みの内、「イルミネーションイベント」、「しんゆりオーリーブまつり」を区の共催事業と位置づけ、イベント開催に係る経費の応分を負担する。 | 「イルミネーションイベント」及び「しんゆりオーリーブまつり」実行委員会に参加し、共催した。「イルミネーションイベント」に負担金の支出を行った。 | 「イルミネーションイベント」及び「しんゆりオーリーブまつり」の実行委員会に参加し、共催した。「イルミネーションイベント」に負担金を支出し、「しんゆり芸術のまち」推進に向けて協働した取り組みを行なった。なお、「しんゆりオーリーブまつり」への負担金については、見直しを行った。 | 芸術・文化のまちづくりは、区計画の主要な取組としても位置づけられており、民間が主体となった活動と連携した取り組みを推進することが重要であることから、適正な負担額の範囲で継続していく。 |
| 28 | 継続 | 地域資源を活用したまちづくり推進事業 | 1,200,000 | 1,146,868 | 企画課 | 地域の特徴ある資源の活用を図り、教育機関や企業等の団体と連携した魅力あるまちづくりを推進する。 | 麻生観光協会、昭和音楽大学と連携し、委託事業を実施 | ●区産の最古の甘柿である禅寺丸柿の記念日が10月21日に制定されたことに伴い、各団体と連携し記念イベントを区役所にて開催した。 ●麻生区・6大学公学協働ネットワークを通じて、明治大学「黒川農場収穫祭」で、昭和音楽大学学生によるミニコンサートを開催し、芸術まちづくりの寄与と農のイメージアップを図った。 ●禅寺丸柿キャラクターを活用し、子どもたちを中心に禅寺丸柿の存在をPRした。 | 2014年、区の木「禅寺丸柿」が、王禅寺で発見されてから80周年を迎えるといわれているため、それをPRする提案事業を中心に、各関係団体との連携を模索していく。 |

| No. | 新規・継続 | 事業名 | 予算額(円) | 決算額(円) | 所管課 | 事業概要 | 実績 | 取組の成果 | 今後の方向性 |
|-----|-------|-----|--------|--------|-----|------|----|-------|--------|
|-----|-------|-----|--------|--------|-----|------|----|-------|--------|

8 地域コミュニティ活性化推進(やまゆり)

| | | | | | | | | | |
|----|----|-----------------------|-----------|-----------|-------|---|--|--|--|
| 29 | 継続 | 麻生区市民活動支援施設利用促進事業 | 1,618,000 | 1,422,431 | 地域振興課 | 麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」を麻生区における多目的な市民活動支援拠点として位置づけ、同施設の市民活動支援の推進を図ることを目的として業務を委託する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●交流イベント、人材育成講座等の実施 ●地域ネットワークサイトの運営及び区民記者の養成 ●市民活動相談窓口の運営 | 麻生区市民活動支援施設「麻生市民交流館やまゆり」において、市民活動相談窓口の運営や情報提供、市民活動団体のネットワークづくりなど市民活動支援全般に関わる業務を行うことで、市民の活動の場や機会を広げ、市民活動の更なる活性化につなげた。また、施設に印刷機やパソコン等の機器を配置し、市民がより活動しやすい環境を形成した。 | 引き続き、地域活動への参加促進のための情報収集・提供を積極的に行うとともに、市民活動団体のネットワーク構築など市民活動支援全般に関わる業務を行う。 |
| 30 | 継続 | 麻生区市民活動支援施設活用事業(局区連携) | 8,072,000 | 8,072,000 | 地域振興課 | 当該施設は、新百合ヶ丘南口・旧あさひ銀行グランド跡地の土地利用転換に伴い、応分の負担として開発業者が「市民活動の拠点施設」を整備することが決まり、平成19年4月に市に寄贈され、供用開始した。当該施設を多目的な市民活動の拠点施設として整備するとともに、市民の主体的な運営参画を実現することにより、市民活動の一層の推進を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> ●市民活動支援施設として、場の提供、情報の提供、人材育成に寄与 | 運営するNPO法人あさお市民活動サポートセンターへの委託事業及び自主事業の展開により、市民活動の支援を行い、市民が更に活動しやすい環境を形成した。 | 施設の運営及び利用率が安定してきているため、今後は現利用者のニーズは勿論のこと、利用を検討している団体のニーズを把握し、更なる利用拡大を目指す。また、施設内で実施されている事業についても、内容について精査し更なる事業展開を行う。 |

9 地域コミュニティ活性化推進(町会・地域)

| | | | | | | | | | |
|----|----|-------------------|-----------|---------|---------|---|---|---|--|
| 31 | 継続 | 麻生区地域コミュニティ活動支援事業 | 885,000 | 758,366 | 地域振興課 | 「麻生市民交流館やまゆり」を通じ、麻生区における市民活動団体等の地域の新たなコミュニティづくりにつながる活動を支援することを目的に、資金助成事業を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●提案型事業の募集・選定・実施 ●選定された事業の支援 ●事業実施報告会の開催 | 事業に対して支援やアドバイスを行うことで、市民団体の活動の幅を広げるとともに、新たな事業を開始する機会を提供した。 | 来年度についても、市民の主体的な参画によって運営されている「麻生市民交流館やまゆり」に本事業の事務機能を置き、市民活動を推進していく。 |
| 32 | 継続 | 麻生まちづくり学校事業 | 300,000 | 300,000 | 地域振興課 | 麻生区のまちづくりを進めるために必要な知識の取得、情報の提供、調査、研究、まちづくりを担う人材の育成及び地域主体のまちづくりの推進を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ●年間5回の連続講座・ワークショップを実施 | ワークショップにより、まちづくりの具体的な問題についての現状把握だけでなく、解決に向けての考え方を学ぶことができた。 | 参加者の運営参加など学習だけで終わることのないような体制づくりを目指す |
| 33 | 継続 | 町内会事業提案制度事業 | 1,000,000 | 636,215 | 地域振興課 | 地域住民相互のつながり、地域の課題解決力の強化を目指し、区内の町内会・自治会が行う地域課題解決等につながる事業を支援する。事業企画を町内会・自治会から募集し、審査により事業の有効性を判断し、提案元の町内会・自治会に実施を委託する形をとる。 | 5件の提案があり、いずれも委託契約を締結している。 | 今年度、5件の事業提案があり、すべての事業について委託契約を締結し、実施した。各町会・自治会からの提案事業を認定し、事業を実施することにより提案元の町会・自治会の地域課題解決力の強化を果たすことができた。 | 現状どおり事業を継続。留意点として提案件数が増加傾向にあることが挙げられる。 |
| 34 | 継続 | 麻生区地域功労賞事業 | 96,000 | 32,788 | 地域振興課 | 区内で活動している個人又は団体を対象とし、地域の活性化に貢献している個人または団体を麻生区長名で表彰し、地域活動への関心を高めることを目的とする。 | 候補者の募集・選定・表彰という一連の事業を8月～10月にかけて実施 | 年間スケジュールに従い、5月に候補者の募集、8月に候補者の選考、10月に表彰、11月に受賞者の広報を実施した。 | 過去の表彰実績を踏まえ、より事業の趣旨に沿うよう、表彰対象・数等について見直しを行い、事業を継続していく。 |
| 35 | 継続 | 麻生区多文化共生推進事業 | 573,000 | 570,551 | 生涯学習支援課 | 市民との協働により事業を実施する。多文化共生を題材とした講演会や講座、麻生区在住の外国人市民との交流会等を通じて、多文化共生社会への理解を深める。また多文化共生社会を麻生区全体に根付かせるために、子どもが参加できる事業の展開や、これまで、特に多文化共生社会に対して、興味・関心の薄い市民に対しても積極的にアプローチを行う。 | 講座(座学型・体験型)、講演会、交流会を実施。子どもから大人まで幅広い年齢層の区民が参加できる講座を開催し、多文化共生に対する理解を広め、麻生区の国際化に寄与した。参加者から講座の担い手となる市民も育成した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●国際理解基礎講座(7月、9月、2月)：座学形式の講座では大人の深い学びにつながり、ワークショップは体を使うことが多く、子どもから大人までが国際理解を体験しながら学ぶことができた。 ●講演会(11月)：日本も含めた世界で活躍している講演者による講演会で、多くの区民の関心を集めた。 ●外国人市民との異文化交流会(3月)：外国人市民と日本人市民が協力して、交流会を実施した。 ●各事業の参加者が、担い手として主体的に事業への参加を希望し、ボランティアの育成ができた。 | 来年度は、企画委員の自由な発想を尊重しながら、今年度の経験をふまえ、事業目的をより効果的に区民に伝えられるよう、事業実施内容を検討する。 |

10 区役所サービス向上

| | | | | | | | | | |
|------|----|------------------|-----------|-----------|-----|--|--|---|---|
| 36 | 継続 | 区役所窓口等サービス充実改善事業 | 3,939,000 | 6,326,351 | 区民課 | 区役所サービス向上指針に基づき、市民に便利で快適なサービスの効率的、効果的かつ総合的な提供を図り、市民の視点に立った区役所サービスの充実を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> ●混雑期に臨時職員を配置し、受付・案内体制の強化を図った。 ●窓口カウンターに手荷物置場を増設した。 ●接遇スキル向上のため、接遇研修を開催した。 ●わかりやすい窓口案内のため、ボイスコール機を導入した。 ●窓口での円滑な接遇のため、TV通訳システムを導入した。 ●来庁者用庁舎案内リーフレットを作成した。 | <ul style="list-style-type: none"> ●混雑期に臨時職員による窓口案内等を配置した結果、混雑なくスムーズに案内・誘導ができた。 ●窓口カウンターに手荷物置場は、支払時等よく利用されており、受渡しもスムーズになった。 ●ボイスコール機の導入により、わかりやすい窓口案内ができた。 ●TV通訳システムの導入により、窓口での正確かつ円滑な接遇に役立った。 ●接遇研修を3回実施し、約130名が受講した。 ●庁舎内階数表示の設置や庁舎案内リーフレットの作成を行い、正確でわかりやすい庁舎案内に役立った。 | 市民の皆様が快適に区役所を利用していただけるよう、引き続きソフト・ハード両面から窓口サービスの充実・改善に取り組んでいく。区役所備品類の老朽化やバリアフリーへの配慮の必要性等により、待合環境や相談窓口等の整備の必要性が増大しているため、経費の支出を要するものについて、区役所全体で総合的に優先順位を決定し、計画的に整備を進める必要がある。 |
| 37 | 継続 | 区政・地域情報提供事業 | 3,041,000 | 1,365,546 | 企画課 | 以下のとおり | 以下のとおり | 以下のとおり | 以下のとおり |
| 37-1 | 継続 | 麻生区統計白書作成 | | | 総務課 | 平成16年度からの継続事業として、各種統計データの収集・分析から明らかになった麻生区特性を冊子にまとめ、転入者や区内の学校へ幅広く配布している。平成19年度に作成した「あさお区ってどんな街？」は2年間の配布用として15,000部作成した。平成21年度は、全面改訂を行い「知れば知るほど あさお元気」を9,000部作成し、配付した。平成22年度、平成23年度は一部改訂し、それぞれ10,000部を作成、配付した。平成24年度は3年ぶりの全面改訂を行い、「もっと好きになる麻生」を7,000部作成した。平成25年度は、一部内容を修正し増刷する。 | 平成24年度作成の統計白書の一部内容修正を行った。平成26年度配布用8000部作成。 | 平成24年度に作成した統計白書を例年のとおり、転入者への配付や区役所・図書館・市民館への配架を行った。また、今年度からの試みとして、中学3年生を対象として麻生区内の市立中学校へ配付を行った。増刷の際は、一部内容修正を行い、翌年度の配布に備えた。 | 麻生区への理解、愛着をもってもらうことを目的として発行し、転入者をはじめとした区民に配付を行っていることから、将来的にも事業を継続していくことが望ましい。次年度も増刷を行い引き続き配布先及び活用方法について検討していく。 |
| 37-2 | 継続 | 麻生区広報関係事業 | | | 企画課 | 区役所職員の広報・広聴業務に関するスキルアップを図り、区民にとってわかりやすく親しみやすいホームページ及び広報誌等の作成を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ●区ホームページ更新実施 ●広報写真の撮り方研修の実施 ●広報紙作成研修の実施 ●市政だより麻生区版特別号の発行 | 区役所内職員への研修を実施し広報広聴のスキル向上を図り、区の情報発信と着信(区民の声)能力を底上げすることができた。また、区の主要な広報媒体である区ホームページを更新・管理し、行政情報を区民に対し迅速に広報することができた。市政だより特別号(環境特集号)については、関係団体の声を聞きながら、小中学生をターゲットにわかりやすい紙面構成で作成し、エコ関連のイベント参加や家庭での取り組みを始めるきっかけとして、新たな参加者の掘り起しにつなげた。高齢者向け保存版ガイドブックの作成については、関係団体への調査の結果、4月に発行した市政だより特別号がその役割を十分担えたとの多数の回答があったため、費用対効果を考慮した上で、作成を見送った。 | 区の広報広聴推進プロジェクトのあり方や実施内容をニーズを把握して再検討するとともに、区ホームページについては引き続き、市民が利用しやすい環境提供などを、実務を通じて検証していく。 |
| 38 | 新規 | 区民広聴事業 | 0 | 17,320 | 企画課 | 麻生区の区政にとっても重要な広聴の場であり、市長が直接区民の声を聞く「区民車座集会」において、聴覚障害者等にも参加の機会を与えられるよう、手話通訳者を準備する必要がある。 | 平成25年度 平成26年1月27日に第1回区民車座集会を開催 平成26年度 平成26年10月6日に第8回区民車座集会を開催予定 | 平成26年1月に麻生区で開催された「第1回区民車座集会」において、手話通訳を設置することで、聴覚障害者に参加していただくことができた。 | 引き続き、「区民車座集会」等の機会において、聴覚障害者等にも参加の機会を与えられるよう、配慮する必要がある。 |

| No. | 新規・継続 | 事業名 | 予算額(円) | 決算額(円) | 所管課 | 事業概要 | 実績 | 取組の成果 | 今後の方向性 |
|-----------------|-------|----------------|------------|------------|-----|---|---|--|--|
| 11 その他経費 | | | | | | | | | |
| 39 | 継続 | 緊急対応事業 | 4,248,000 | 0 | 企画課 | 区内の緊急課題、区民要望等に対応した事業を実施する。 | ・総合型スポーツクラブの新規設立のための調査、人材育成を目的としたスポーツ教室の実施委託料への流用 ・地域防災力の向上に関わる区民会議モデル事業の実施委託料への流用 | スポーツ教室を実施し、次年度以降に望まれている総合型スポーツクラブの新規設立に向けた取り組みに今年度から着手することで、スポーツのまち麻生を推進することができた。区民会議が審議しているテーマ「大地震から助かる命を守る」について、地域防災力の向上に繋がる家具転倒防止等モデル事業を実施することで、審議を実践的な内容を踏まえたものとする事ができ、地域課題の解決に繋がった。 庁用器具購入により区役所窓口のサービス充実改善を行った。 | 区内で緊急に対応しなくてはならない課題に対しては、即応事業に移行し、事業を終了する。 |
| 40 | 継続 | 事務費等共通経費 | 1,105,000 | 980,445 | 企画課 | 地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等の購入、郵便料、複写品費等を確保する。 | 地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等を購入した。また、郵便料、複写品費等を適正に執行した。 | 地域課題対応事業の実施に必要な事務用品等を購入し、郵便料・複写品費等を適正に執行することで、各事業の円滑な運営に寄与した。また、消耗品費等については、各課の実情も考慮しつつ、区民サービスの視点から必要なものを精査して購入を図り、各課担当者に、予算を有効に活用してもらう意識づけともなった。 | 地域課題対応事業を円滑に実施するために、今後も事務費の適切な執行に努め、更なる区民サービスの向上を図っていく。 |
| 41 | 継続 | 麻生区地域課題解決型提案事業 | 3,604,000 | 2,815,745 | 企画課 | 地域課題の発見と解決を図る新たな提案型事業を公募し、事業選定審査委員会の意見をもとに事業決定する。決定した事業は、市民活動団体等の提案団体と協働の理念にのっとり、事業を委託して実施する。 | ●事業進行の整理と検討 ●24年度事業報告会の実施 ●25年度中間報告、実施報告 ●26年度事業の募集、審査委員会による事業選定 | 選定された5事業について、協定、委託契約、事業実施、中間報告、事業実施報告の一連の流れに沿って進捗を確認することができた。局内及び応募団体（区民）への募集説明会の開催により、応募を円滑にし、適切な事業選定を進めることができた。中間報告の公表、公開事業報告会により、透明性を確保し、適切な事業実施ができた。 | 「事業提案」という性格上、フレーム予算となってしまうが、今後の事業費及び事業数の拡大・維持・縮小については、3年間の継続事業が終了したこと、経年の応募状況を踏まえ、流動的に検討していく必要がある。 |
| 合 計 | | | 74,734,000 | 66,837,199 | | | | | |